

日本協同組合学会 Newsletter

Vol.24 No.3(通巻62号)

2013年4月10日

～第32回春季研究大会案内号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 関英昭
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル5階
J C 総研(日本協同組合総合研究所)協同組合研究部内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX:03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp ホームページ: http://coopstudies.jp

日本協同組合学会 第32回春季研究大会のご案内

開催日: 2013年5月18日(土) 10:00～16:30

会場: 杉妻会館(福島市杉妻町3-45)

福島県庁隣 福島駅より徒歩10分

テーマ: 原子力災害から農とくらしの復興を
～食・エネルギーと協同組合間協同～

<申込案内>

参加費: 500円(当日集めます)

弁当: 500円(飯館村避難農家かーちゃんの力弁当・当日集めます)

懇親会参加費: 4,000円 学生は3,000円(当日集めます)

エクスカージョン: 3,000円(当日集めます)

報告要旨集のみ希望者: 1,800円(送料込 振込手数料はご負担下さい)

参加・不参加など同封の葉書に必要事項を記入の上、4月30日(火)必着で送付してください。



日本協同組合学会福島大会実行委員会: 実行委員長 高瀬雅男 事務局長 小山良太

共催: 北日本漁業経済学会

後援: 東北農業経済学会 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

福島大学協同組合ネットワーク研究所 地産地消ふくしまネット

協力: 福島県生協連 JAグループ福島 福島大学

連絡先: 〒960-1296 福島市金谷川1番地 福島大学経済経営学類 小山良太

TEL・FAX024-548-8387 携帯: 090-2072-6152 koyama@econ.fukushima-u.ac.jp

座長解題

東京電力福島第一原子力発電所事故から2年が経過した福島県では、作付制限地域の設定や出荷制限品目の一部指定に加え、「風評」問題が依然として継続している。生産現場では農家の営農意欲の減退から離農問題が顕在化している。

原子力災害以前(2010年)の福島県の農業粗生産額は約2330億円、販売農家は約7万戸であった。事故後の2011年度は1851億円と479億円の減少となっている。農業にかかわる損害賠償額は930億円(JA福島中央会、2013年2月時点)であり、他の損害も含めると約1200

濱田武士(東京海洋大学)

億円程度の損失と推計される。フローの産出額のみでこの規模である。さらに、農村内部には、地域の営農を支える様々な資源、組織、人間関係が構築されてきたが、これ自体が大きく毀損されることとなった。

今回の原子力災害の最大の問題は、放射能汚染により農産物が売れないというような単純な話ではなく、農業という産業と暮らしの空間(地域)自体を大きく毀損したことである。福島県では、地域の担い手や集落での営農方式などが受けた損害からどのように地域農業を再生させるのかが大きな課題となっている。

また、原発事故の影響で放射性物質が拡散した地域は福島県に限らない。しかし2年経った今でも、各農地の放射性物質含有量は測られていない。政府による詳細な放射能汚染マップが未だに作成されていないのである。検査体制も出荷前・流通段階でサンプル検査（福島の米のみ全袋検査）をするという体制であるが、店舗で売られている農産物そのものの放射性物質含有量はわからない状況である。

そこで本シンポジウムでは、福島県における原子力災害の影響と福島県農林水産業における放射能汚染問題の現状を整理し現段階の課題を明らかにする。その上で地域の協同組合組織による放射性物質検査態勢の体系化や「風評」問題への対応方策を検討し、福島県における食と農林水産業の再生と地域エネルギーの構築に向けての方向性を議論したい。

第1報告は「福島原発事故から3年、福島県農業の再生の取り組み」とし、福島県農業協同組合中央会の長島俊一常務から、放射能汚染問題、農業の損害、検査体制、風評問題、営農の再開について、2年間の福島県農業政策、JAの取り組みを紹介していただく。第2報告では、「原発事故と漁業の再生 - 地域とすすめる魚のまちづくり - 」と題し、北日本漁業経済学会の二平章会長から、海と魚の放射能汚染問題、

漁業被害、検査体制、風評問題、商工会議所との魚のまちづくりについて報告いただく。第3報告では、「放射能汚染問題とくらし・生活の再建」とし、福島県生協連の熊谷純一会長より、福島県での地域住民の生活問題、低線量被曝と健康不安、子供保養の取り組み、産消提携で汚染マップの作成について報告いただく。第4報告では「地域エネルギーと協同組合」と題し、日本大学の高橋巖会員より、協同組合における再生可能エネルギーの取り組みの先進事例と福島県の示唆について報告いただく。第5報告では「穀物菜食や自然療法をとおした地域の『命の砦』活動」について、須賀川市の自然食レストラン「銀河のほとり」の有馬克子代表から、放射能測定所を併設した経緯や福島の立て直しに必要な協同労働について報告いただく。

以上の報告に対し、コメンテーターを3名にお願いした。主に第1・5報告に対して、守友裕一会員（宇都宮大学農学部）に、主に第2・3報告に対して開沼博氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・地域復興部門）、主に第1・4報告に対して、大平佳男氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・地域エネルギー担当）よりコメントを頂く。これらを踏まえ、フロアとの総合討論により議論を深めていきたいと考えている。

プログラム

受付開始		9:30
会長挨拶	関英昭（青山学院大学）	10:00-10:10
実行委員長挨拶	高瀬雅男（福島大学協同組合ネットワーク研究所会長）	10:10-10:15
座長解題	濱田武士（東京海洋大学）	10:15-10:30
第1報告	福島原発事故から3年、福島県農業の再生の取り組み 長島俊一（福島県農業協同組合中央会） （放射能汚染問題、農業の損害、検査体制、風評問題、営農の再開、協同組間、協同による汚染マップ作成）	10:30-11:05
第2報告	原発事故と漁業の再生～原子力政策と日本漁業 二平章（北日本漁業経済学会・漁業情報サービスセンター） （海と魚の放射能汚染問題、漁業被害、検査体制、風評問題、商工会議所との魚のまちづくり）	11:05-11:40
第3報告	放射能汚染問題とくらし・生活の再建 熊谷純一（福島県生協連） （避難者の生活、低線量被曝と健康不安、子供保養、産消提携で汚染マップの作成）	11:40-12:15
	昼食	12:15-13:10
第4報告	地域エネルギーと協同組合 高橋巖（日本大学） （協同組合における再生可能エネルギーの取り組み）	13:10-13:45
第5報告	穀物菜食や自然療法をとおした地域の「命の砦」活動 有馬克子（「銀河のほとり」代表） （レストランの状況と放射能測定所を併設した経緯、福島の立て直しに必要な協同労働）	13:45-14:20
第1コメント	守友裕一（宇都宮大学）	14:20-14:40
第2コメント	開沼博 （福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・地域復興部門）	14:40-15:00

第3コメント	大平佳男 (福島大学つくしまふくしま未来支援センター・地域エネルギー担当)	15:00-15:20
	休憩	15:20-15:30
総合討論		15:30-16:30
閉会挨拶		16:30-16:35

懇親会(同会場にて) 17:00-19:00

エクスカーション 5月19日(日)

- 9:00 飯坂温泉または福島駅出発(ワゴン車に分乗)
- 10:00~12:00 農業協同組合発祥の地である伊達市霊山小国地区視察
- ・特定避難勧奨地点
 - ・原発事故最初の農地の汚染マップ作成(福島大学と現地組織)
 - ・放射能からきれいな小国を取り戻す会 佐藤惣洋会長のお話
- 12:00~13:00 昼食(かーちゃんの力弁当)
- 13:30~15:30 飯館村視察
- 菅野村長・役場職員等下記について話していただく予定
- 飯館村の現状と復興の課題
 - 農地の現状と除染の取り組み
 - エリアの再設定と帰村の取り組み
- 守友先生のお話(震災前の飯館村や現在の復興委員会の課題について)
- 17:00 ごろ福島駅着。解散
- 参加人数:28人先着順
- 参加費3000円(5月18日に集めます)

2012 年度第2回理事会

下記の通り理事会を開催いたしますので、ご出席ください。

日時:5月17日(金)理事会 16:00~17:30

場所:コラッセふくしま3F会議室

福島県福島市三河南町1-20 電話024-525-3911

JR福島駅西口より徒歩3分

主な議題:第33回大会企画・理事改選・2013年度方針など

理事会終了後、福島市飯坂温泉の伊勢屋に宿泊予定です。詳細はメールでご連絡いたします。



新

協同組合理論研究会

下記の通り、開催いたします。多くのご参加をお待ちしています。

学会の会員以外にもお知らせください。

テーマ:「T P Pで危機に曝される協同組合~自治とセーフティネットを守るために」

日時:5月11日(土)14時~17時

会場:明治大学 駿河台校舎研究棟2階 第9会議室

報告者:高橋巖(日本大学)

コメンテーター:関英昭(青山学院大学)

参加費:1000円

- ・JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線/御茶ノ水駅 下車徒歩3分
- ・東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩5分
- ・都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅 下車徒歩5分



2013年度学会賞（「学術賞」「奨励賞」「実践賞」及び伊東勇夫基金に基づく「学会誌賞」）の推薦をお願いします

推薦期間：2013年2月から2013年6月30日（日）までの5ヶ月間。

推薦対象

学術賞：本学会に5年以上継続して所属している会員。

2013年5月末までの3年5ヶ月間に刊行された著書、論文またはそれに準ずるもの。

奨励賞：本学会に3年以上継続して所属している40歳未満の会員。

2013年5月末までの3年5ヶ月間に刊行された著書、論文またはそれに準ずるもの。

学会誌賞：本学会会員で、本学会誌『協同組合研究』に論文を執筆した45歳未満の会員

実践賞：3年以内に刊行・発表された実践活動の記録がある者（団体）

推薦方法：2名以上の本会普通会員の連名による推薦を得る。選考対象の研究業績の現物、著者または著者代表者の業績一覧及び履歴書各1部を添えて推薦状を提出する。

推薦する場合には、学会事務局（JC総研）に連絡のうえ、所定の推薦書様式を入手して下さい。

会員の著書紹介

北島健一・鈴木岳 他訳 ジャン＝ルイ・ラヴィル（編著）『連帯経済～その国際的射程』生活書院
2012年1月25日

古沢広祐・國學院大學研究開発推進センター 編著『共存学 文化・社会の多様性』弘文堂
2012年3月8日

秋葉武・菊地謙 他共著『危機の時代の市民活動～日韓「社会的企業」最前線』東方出版
2012年4月5日

中川雄一郎・杉本貴志編著 全労済協会（監修）『協同組合を学ぶ』日本経済評論社 2012年5月

山本辰義著『漁協の組織・経営十章』漁協経営センタ出版部 2012年6月20日

小山良太共著『放射能汚染から食と農の再生を』家の光協会 2012年7月27日
共著『東日本大震災 復興に果たすJAの役割』家の光協会 2012年7月27日

石見尚著『都市に村をつくる 「協同組合コミュニティ」に根ざした国づくりのために』
日本経済評論社 2012年9月

松岡公明著『現場からのJA運動 JA運動のダイナミズムを再生するために』家の光協会
2012年9月1日

石田正昭著『農協は地域に何ができるか』農文協 2012年10月30日
編著『なぜJAは将来的な脱原発を目指すのか』家の光協会 2013年3月1日

北出俊昭著『協同組合と社会改革』筑波書房 2012年12月10日

濱田武士著『漁業と震災』みすず書房 2013年3月8日発行

藤井敦史・大高研道 他編著『闘う社会的企業 コミュニティエンパワメントの担い手』勁草書房
2013年3月15日

馬頭忠治著『アソシエーションとマネジメント 経営学再考』ラグーナ出版 2013年3月18日